
クリスマス・ナイト

快丈凪

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

クリスマス・ナイト

【Zコード】

N3181A

【作者名】

快丈風

【あらすじ】

最悪のクリスマスの日に私が出会ったのは、最高のあなたの笑顔でした。

「信じられない…サイト…！」

バンッ！と喫茶店のテーブルを叩く女。

その前に座っている男は特に動搖するでもなく、ふてぶてしい顔をして彼女を見ない。

彼女はそれを見て余計に腹が立つたのか、テーブルの上のコップの水を男に勢いよくかけ、振り向かずに店を出た。

後ろから男の怒鳴り声、周囲からは驚いた顔や冷たい視線……。彼女はそれらを全て無視した。

彼女は教会へ行つた。

彼女の両親はカトリックで、彼女も小さい時から毎週日曜日に教会へ通つっていた。なのでこんな時は神様の側に居たいと思つた。

夜更けの教会はナゼか鍵がかかっていなかつた。いつもは厳重に管理しているハズだが……。

彼女は一番前の席に座り、ステンドガラスを眺めた。
月明かりに照らされ、夜だというのにステンドガラスはとてもよく見える。

それを見ていると涙があふれてきた。

今まで、彼女はずつとさつきの男に泣いてきた。……それなのに……

…！
そつ思えば思つゞじ、涙は止まらない。
むなしくて……でもビリしようもないもじかしさで、更に彼女は泣
いた。

ガチャツ

その時、教会のドアが開いた。

「誰か、いるんデスカ？」

若い男の声。

反射的に彼女は泣き止む。

コツ、コツ、コツ……

静かな教会は、足音がよく響く。
だんだん足音は近づいてくる。

……コツツ……。

足音がとまる。

彼女は顔をあげた。そこには、サラサラとした金髪で神父の格好を
した外国人が立っていた。

彼は彼女を見る。

「泣いているんデスカ？」

片言の日本語。

「違ひ……ます……」

不意打ちをくらつた彼女はキチンと答えられない。

「でも、アナタ泣いてる。涙がでてマス」

心配そうに近寄る金髪の神父。ドキッとする……。

「大丈夫です……それより、アナタは誰ですか？」

田をそらし、話題を自分から遠ざけようとする彼女。

「オウ！失礼シマシタ！わたしはキース。キース・エレオントといマス。教会の鍵を閉め忘れて閉めに来まシタ。アナタは？」

やわらかい笑顔で言うキース。

「私は……山野辺美雪です」

少しオドオドしながら言う私。

「ミユキですネ！カワイイ名前デス！でも、泣いてたらもつたいないデス。アナタ、笑顔の方が素敵デス！」

何の抵抗もなく、二三二口しながら言うキース。

「……私、笑える気分じゃないの」

美雪はため息混じりに言った。

「ナゼですカ？今日はクリスマスですヨー！」

無邪気に笑うキース。

「そうね。神がお生まれになった日だわ。……でもね、私はさつき恋人と別れたの」

美雪はそう言いながら少しひつ向いた。

その様子を見たキースは、さつきよりしんみりとした声で言った。

「彼のこと、愛していたんデスネ、ミユキ」

「愛してたのかな……一方的過ぎたのかも。私以外にも3人恋人いたの、その人」

「ミコキは愛してマシタ。だから泣いてたんでシヨ」
「そりなのかな……」

不思議だ。

さつきまで忘れ去りたい程に恋まわしかつた事を、平氣で口にしてる。

キースになら、言える。

キースだから、言えた?

「神様はちゃんと見ておられマス。ミコキのことも」

キースは美雪に向き合つて続けた。

「クリスマスには笑顔がたくさん。でも、泣いてる人は少ない。だから、神様は他の人よりもミコキを気にとめて下さ」マス

「キース……」

「だから、安心して下サイー。ミコキの事、神様はもう存じテス! 神様も心配されマス! ミコキは笑顔になつて下サイー!」

キースは一生懸命に言つ。

「……そうね。そうだわ、ありがとう、キース。元氣が出た」思わず笑顔になる。

「ア、ミコキ、笑いマシタ! やつぱり笑顔がキュートなんですね!」

「……やめてよ、キース……照れるよ……」

「そうデスカ?」

不思議そうなキース。

「……私、もう帰る。だいぶ落ち着いたし」

「それは良かつた! そうするがとつても良いです」

相変わらず片言のキース。

「うん、ありがとね、キース」

立ち上がり、ドアを指す私。

ふと、気になつて聞いた。

「ねえ、キースは神父さま？今日の礼拝には居なかつたよね？」

「おとといからこちらに来まシタ。でも、今日は用事があつて出られませんデシタ。来週からは出マス！」

「そう……私、毎週來てるの。だから、また来週会いましょうね！」

「それは楽しみデス！また来週デス！グッバイ、ミコキ！」

教会を出た私は、心が暖かつた。

今日は失恋したハズなのに、心がポカポカしている。

きっとキースのおかげだ……。

そんなことを思いながら、美雪は家に帰つた。

美雪は来週、礼拝が面倒で確か礼拝の時間に友達と遊ぶ約束をしていたけどキャンセルすることにした。

それはモチロン、来週の日曜日にまた心が暖かくなる笑顔が見たいと思つたからだ。

(後書き)

いかがでしたでしょうか?ほのぼのした話が書きたくて今回の話を思いつきました。ちなみに今年のクリスマスは本文どおり田耀です(笑)

ケースの片言な日本語は、留学生の私の友達が実際に話す日本語をモデルにしました

ではまたお会い出来る日を楽しみにしています!それでは~.

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3181a/>

クリスマス・ナイト

2010年10月28日08時03分発行